

日本アート
グラフィック
・デザイン

「環境保護印刷とケミカルCTP」

渡邊美術印刷（埼玉）で見学会

日本アクファ・ゲバルト株式会社は、「環境保護印刷とケミカルCTP」をテーマに渡邊美術印刷株式会社（関根社長、さいたま市）で見学会とセミナーを開催した。

「もっと美しく、よりリアルに」をモットーに高級美術印刷を手掛ける、渡邊美術印刷は、今年2月に機2台、菊全判5色機1台、アクファ・ゲバルト社のサ



関根社長

関根社長はデジタル対応とCTP導入の背景について、次のように説明する。

渡邊美術印刷は、今年2月に機2台、菊全判5色機1台、アクファ・ゲバルト社のサ
「もっと美しく、よりリアルに」をモットーに高級美術印刷を手掛ける、渡邊美術印刷は、今年2月に機2台、菊全判5色機1台、アクファ・ゲバルト社のサ
「もっと美しく、よりリアルに」をモットーに高級美術印刷を手掛ける、渡邊美術印刷は、今年2月に機2台、菊全判5色機1台、アクファ・ゲバルト社のサ

「当社では、兼ねてより印刷ではNon VOC、環境をアピールしてきた。環境に取り組む当社としては、CTP検討の中で唯一、実用レベルに達しているケミカルCTPシステムの提案がアクファ社よりあったが、他メーカーのCTPも当然、検討した。発売間もなく不安はあったが、未来をつかみたいという願いで、全てをクリアしたアクファ社のサマルCTP「アバロン」とケミカルCTP「アスーラ」をた（関根社長）と振り返る。

採用した」と関根社長は語る。当然、印刷現場の意識改革も進めていく、印刷機による変動要因を徹底的に検証し、標準化も進めている。

2月上旬導入立ち上げ後、3月中旬から運用が開始された。PDFワークフローシステム「アボジョーX」にインクジェットブルームを出力している。すでに20日間/月、10時間稼働というペースで順調に稼働し、2000版/月という出力目標も目処が立っている。抜群の安定性を実感すると共に、耐刷力も13万枚通しを完了している。

また、同社に合わせた印刷用カーブの設定により、従来受けていた支給版の印刷よりも立体感とボリューム感のある印刷物を再現できるようになった。

オペレータの努力とGrand Sherpa Maticの活用により、すでに5000版出力中やレ版セロを更新しておりコスト削減に大きく寄与している。



サマルCTP「アバロン」



Grand Sherpa Matic

今後の目標として、CTP化率の向上による経営面、あるいは標準化に貢献し、スプリマによる高精細印刷を本格的に活用し、さらに環境保護印刷を高めていくとしている。